

## 三条市租税教育推進協議会長賞

### 税と教育

三条市立本成寺中学校 三年 笹川 暖人

ささがわ はると

「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」

これは、ふと、教科書の裏表紙を見たときに書いてあつた言葉だ。これをはじめて見たとき、税金？税金って、どんなのだつける、文中の「税金」という単語が目に留まつた。税金のことなんて消費税ぐらいしか知らなかつたし、どのように使われているかもよく分からなかつた。しかし、分からぬながらも、この制度にどのような目的があるのだろう、なぜこのようなことができるのだろうと様々な疑問がわいた。そこで、教科書の支給を無償で行う「教科書無償給与制度」について調べてみると。

まず、この制度の目的について調べた。これは、日本国憲法第二十六条の規定に基づいて、昭和三十八年から始まつたそうだ。保護者が教科書を購入する費用を国が負担し、すべての子どもが平等に教育を受けられるようになることが主な目的らしい。また、これには、将来を担う子どもたちにより良い社会をつくつてほしいという願いも込められていることが分かつた。

次に、教科書無償給与制度ができる理由について調べた。令和七年度の国の歳出を見てみると、歳出総額は約百五兆二千億円で、そのうちの約五兆六千億円、つまり総額の五パーセントほどが教

育のために使われていることが分かつた。このお金のおかげで教科書を子どもたちに支給できるというわけだ。五兆六千億円という巨額が私たちの教育のために使われていることとともに驚いた。

調べた結果、教科書無償給与制度は、私たちが不自由なく教育を受けられるように、たくさんのお金を使って行われていることが分かつた。これを受けて、これまでの教科書の使い方を見直さなければならぬと思った。今までの扱い方を振り返ると、少し乱雑に使つていたような気がする。でも、これからは、もつと丁寧に扱おうと思う。また、国が教科書の購入費を負担するための税金を払つてくれるすべての人への感謝も忘れてはいけない。私がもっと大きくなつて、もっと多くの税に関わるようになつたら、今度はその人たちへの恩返しの気持ちと次世代の子どもたちへの期待の気持ちを込めて税を払い、社会をより良くするために貢献したい。そのためのまづ第一歩として、三月に高校受験が控えている。志望校に合格できるよう、これまで支給されてきた教科書を存分に使い、より一層勉学に励んでいきたい。